

# 中学生連載企画 私たちのふるさと松山学 No.9

## ロシア兵墓地の歴史



高橋 李桜さん (3年)

■日露戦争時に設けられた捕虜収容所  
1904(明治37)年2月に日露戦争が始まって1カ月後、松山に全国初の捕虜



墓石1基につき生徒1人が担当

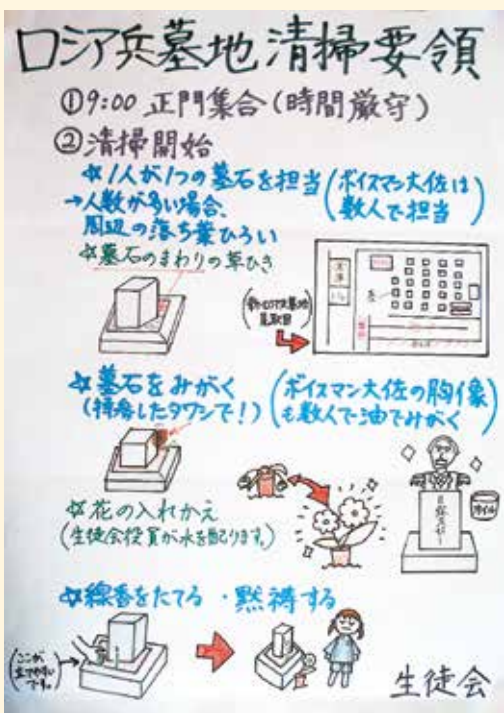
### 勝山中学校

# 受け継がれる奉仕の心 ロシア兵墓地清掃奉仕活動

日露戦争時に捕虜となり、故郷に帰ることができなくなったロシア兵の人たちをしのんで建てられた「ロシア兵墓地(御幸一丁目)」。私たちの学校では生徒会が中心となり、伝統行事として「ロシア兵墓地清掃奉仕活動」を行っています。

収容所が設けられました。

そこには、終戦までにおよそ6000人のロシア兵捕虜が収容されたといわれています。戦時中だったにもかかわらず、松山市民は「もてなしの心」で、負傷したロシア兵を手厚くもてなしました。「もてなしの心」とは、困っている人がいれば助ける、それは人として当たり前のことだという松山に根付く人情です。



生徒会で代々受け継がれている清掃要領

### 清掃活動の始まり

■松山での生活と墓地の建立  
収容されたロシア兵の生活には自由な面もあり、ある程度元気な人は、トランプや音楽鑑賞、さらには自転車レースまでしていたようです。しかし、収容所生活の中で、戦争中に受けた傷が原因で、98人のロシア兵が亡くなり、彼らをしのんでお墓が建てられました。それが「ロシア兵墓地」です。



田中 悠太郎さん (3年)

当初建てられたお墓は

木で作られたもので、松山の人たちの手で大切に守られてきました。長い年月の中で傷みが激しくなり、石の墓標が建てられました。その後、昭和39年に市の管理となり現在の場所に移転しました。以来、多くの人々によって保存活動が続けられています。

勝山中学校では昭和59年、当時の生徒会を中心に生徒たちがロシア兵墓地の清掃を始めました。これが、現在まで勝山中学校で続いている「ロシア兵墓地清掃奉仕活動」の始まりです。現在は毎月第2土曜日に清掃を行っています。毎回100人ほどの生徒が参加し、きれいに保たれています。

### 生徒会としてこの活動に関わって



松村 唯美さん (3年)

毎月欠かさずことなく活動に参加した友人の「この伝統を自分の手で継いでいきたい」との言葉。このような思いを持つ多くの生徒によって支えられているこの活動に生徒会の一員として参加できたことは私の誇りです。



高須 夏穂さん (3年)

願いがかなわず亡くなったロシア兵の人たちをしのぶ思いや平和への願いが伝わってくるようで、この活動のすばらしさをあらためて感じます。



藤原 諒さん (3年)

生徒会役員として、参加する生徒に的確に指示する立場として苦労も多いですが、清掃後の晴れ晴れとした顔を見ると充実感があり、人間として大きく成長できたことを実感します。



波多野 涼一郎さん (3年)

墓石を磨く人や草抜きをする人、落ち葉を集める人など一人一人が生懸命取り組むことできれいな墓地が保たれています。私は生徒会として活動に参加することによって誰とでも話せるようになり、強くなれた気がします。

清掃奉仕活動に参加すること、祖国へ帰るとい



越智 梨咲子さん (3年)

慰霊祭は、過去の戦争とロシア兵墓地の歴史を振り返るきっかけとなり、国際交流においてもロシア兵墓地での活動が大切であると感じました。活動を通じて遠い昔と感じていた戦争を身近に感じ、今後自分できる形で平和に貢献したいです。

### 伝統ある活動を受け継いでいきたい



清掃、保存活動を続けている保存会を始め、地域の人たちへの感謝を忘れることなく、国際交流の懸け橋でもある歴史ある活動をこれからも誇りを持って受け継いでいきたいと思っています。

### ロシア兵墓地の慰霊祭

ロシア兵墓地では毎年、ロシア正教の祈りをささげるパニヒダ慰霊祭、市が主催するロシア兵墓地慰霊祭が行われています。こうした行事は、関係する大使館や総領事館を始め、親善舞踊団や音楽団などの訪問を受けるなど国際交流の場ともなっています。市主催の慰霊祭では私たち生徒会から、この活動に寄せる思いを生徒会長が代表し出席者の皆さんに伝えていきます。



市主催の慰霊祭の様子

### 先人と文化の読み物教材

### 語り継ぎたいふるさと松山百話 I・II・III



第II巻にロシア兵墓地の清掃を収録

松山の先人や文化に関する心に響くエピソードをまとめた教材集です。一話が10〜14ページ程度で、気軽に松山ゆかりの先人の足跡や文化に親しむことができ、市立図書館で見ることができ